

2 0 2 3
アベリスツイス高校生派遣事業
報告書
(2023. 11. 6~11. 17)



与 謝 野 町

目 次

○団長挨拶	・ ・ ・ ・ ・ 1
○訪問団名簿	・ ・ ・ ・ ・ 2
○フランク・エバンス氏と与謝野町	・ ・ ・ ・ ・ 3
○交流のあゆみ	・ ・ ・ ・ ・ 4
○アベリスツイスの紹介	・ ・ ・ ・ ・ 7
○研修日程・概要	・ ・ ・ ・ ・ 9
○研修生報告書	・ ・ ・ ・ 12
○随行職員報告書	・ ・ ・ ・ 80

団長挨拶



与謝野町長 山添 藤真

アベリスツイスと本町の交流は、第二次世界大戦中、日本軍の捕虜となり大江山ニッケル鉱山で強制労働を強いられた故フランク・エバンス氏が、昭和 59 年に旧加悦町を訪問し、大江山運動公園に抑留中に亡くなった僚友を偲ぶために、旧加悦町、日本冶金工業株式会社とともに慰霊碑を建立したことをきっかけに始まりました。

これまでの間、両町友好協会の皆様方の非常に熱心で献身的な活動のおかげを持ちまして、おおよそ 40 年に渡り両町の交流を続けて来ることができました。この交流をより持続的に、また発展的に続けていくことができるよう、今回の訪問を機に、現地町議会や州議会など多くの方々のご協力を得まして、両町における行政間での友好協定の締結を行いました。

今回の友好協定の締結は、これまで以上に交流の広がりを期待できるもので、今後におきましても引き続き高校生の相互を重ねつつ、これまでとは違った視点での国際交流の展開をしていきたいと考えています。

また、前回（平成 30 年）に引き続きアベリスツイス大学を訪問し、同大学と締結している連携協定について意見交換を行い、コロナ禍において中断していた交流事業の再開と連携協定の更新について合意することができました。

今日まで大切にしてきた絆に加え、今回の訪問により築くことができた新たな絆を大切にしながら、皆様方と両町の交流を更に深めていきたいと考えていますし、今回参加していただいた高校生の皆様には未永く両町の架け橋になっていただけることを心より祈念申し上げたいと思います。

訪問団名簿

団 長	山 添 藤 真	与謝野町長	
研 修 生	井 崎 李 美	宮津天橋高等学校加悦谷学舎	2年生
	太 田 絢 子	宮津天橋高等学校加悦谷学舎	2年生
	根 本 咲	宮津天橋高等学校宮津学舎	2年生
	堀 江 健 士 朗	海洋高等学校	2年生
	村 田 亜 美	宮津天橋高等学校加悦谷学舎	2年生
	森 下 彩 咲	宮津天橋高等学校宮津学舎	2年生
	尾 関 真 帆	福知山高等学校	1年生
	西 村 れ い	宮津天橋高等学校加悦谷学舎	1年生
随 行 職 員	廣 谷 章 彦	与謝野町企画財政課	主任
	井戸本あゆみ	与謝野町総務課	主任

※山添町長は11月6日から11月9日までのみ同行

フランク・エバンス氏と与謝野町

—フランク・エバンス (Frank Evans) —

1917年5月23日、Llanwnnen (シヤヌーネン・ウェールズ) に生まれ、第2次世界大戦中、軍人として香港で兵役に就いていた1941年、日本軍の捕虜となり、1943年に日本に送られ、鉱山での労働を強いられました。1945年、終戦と同時に帰国、40年が過ぎた1981年、香港を訪れた帰国時の飛行機内で日本人女性鬼頭さんと知り合い、鬼頭さんの力を借りながら、ついに京都大江山のニッケル鉱山跡にたどりつかれました。

晩年は、旧加悦町とアベリスツイスの交流推進に力を注ぎ、多くの人から愛され親しまれました。

1996年11月6日逝去。享年79歳。

—メッセージ—

著書「ROOL CALL AT OEYAMA」大江山の点呼
Sakura Peace Message By Frank Evans
(桜の平和メッセージ フランク・エバンス)



Consider our blossoms which are beautiful in life and death. Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but, Instead, allow us all to live and die naturally in perfect peace for ever more.

(咲いているときも、散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように。そして全ての人間が平和のうちに生をまっとうできますように。)

—交流のきっかけ—

旧加悦町とアベリスツイスの交流は、第2次世界大戦時に旧大江山ニッケル鉱山での戦争捕虜体験を持つ故フランク・エバンス氏が、鉱山で亡くなった戦友の慰霊碑の除幕式のために、昭和59年に加悦町を訪問されたことをきっかけに始まりました。故フランク・エバンス氏は、加悦町との交流の推進に取り組み、友好の絆を結ぶ礎を築かれました。

—高校生相互派遣交流—

平成4年から友好の架け橋として未来ある高校生の相互派遣交流を進め、毎年度受け入れと派遣を交互に行い、年々交流が深まっています。

本町とアベリスツイスの高校生交流は、双方の友好協会などの交流事業関係者が参加し、ホームステイや体験を通じてお互いの国の歴史・文化・生活・習慣などを理解することができる貴重な機会となり、両町の交流推進の大きな柱となっています。

交流のあゆみ

日 程	内 容
昭和 59 年 11 月 13 日	フランク・エバンス氏が加悦町を訪問 大江山運動公園に平和を願う慰霊碑を建立（11月20日除幕式）
昭和 60 年 6 月 6 日 ～6 月 13 日	細井拓一加悦町長・西原正二議会議長がアベリスツイスを訪問
昭和 61 年 12 月	両町の交流を記念してアベリスツイスの木「キングサリ」を大江山運動公園に植樹
昭和 62 年 12 月	フランク・エバンス氏加悦町を再度訪問し両町友好の推進を誓う アベリスツイス・タウンホール前に加悦町から贈った桜の木を交流の記念として植樹
平成元年 3 月	ウェールズ大学国際センター所長ジェフリー・ブラウン氏が加悦町を訪問 ウェールズ大学アベリスツイス校への町民語学研修生派遣の道が開かれる
平成 2 年 6 月 28 日 ～9 月 12 日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生 2 名を派遣
平成 3 年 8 月 27 日 ～9 月 20 日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生 2 名を派遣
平成 4 年 7 月 1 日 ～7 月 10 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 2 名をホームステイで 12 日間受け入れ
平成 5 年 11 月 3 日 ～11 月 11 日	小西英雄助役を団長に町内高校生 8 名がアベリスツイスを訪問、ホームステイで 8 日間滞在
平成 6 年 8 月 21 日 ～9 月 2 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 2 名をホームステイで 12 日間受け入れ
平成 7 年 10 月 28 日 ～11 月 10 日	町内高校生 5 名アベリスツイス訪問、ホームステイで 10 日間、ロンドン 3 日間滞在
平成 8 年 7 月 8 日	民間レベルの交流を推進するため、加悦アベリスツイス友好協会設立
平成 8 年 7 月 14 日 ～7 月 28 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 8 名、教師 1 名を 14 日間受け入れ
平成 9 年 3 月 30 日	外務省の招聘を受け来日したアベリスツイス在住のグウィン・デービス氏とドナルド・グリフィス氏が加悦町を訪問 旧大江山ニッケル鉱山跡や大江山運動公園の慰霊碑を見学
平成 9 年 10 月 29 日 ～11 月 12 日	町内の高校生 5 名が、アベリスツイスを訪問し、ホームステイで滞在
平成 10 年 10 月 20 日 ～10 月 30 日	アベリスツイス高校生 3 名、アベリスツイス加悦友好協会会長、友好協会会員の 2 名が 11 日間の日程で加悦町を訪問

平成 11 年 2 月 9 日 ～2 月 15 日	加悦アベリスツイス友好協会が 7 日間の日程で、6 名の社会人訪問団を派遣
平成 11 年 10 月 28 日 ～11 月 9 日	町内高校生 5 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 12 年 10 月 22 日 ～11 月 4 日	アベリスツイス高校生 6 名と先生 1 名が 14 日間の日程で加悦町を訪問
平成 13 年	アベリスツイスへの高校生訪問団派遣をアメリカ同時多発テロ事件のため中止
平成 14 年 10 月 27 日 ～11 月 8 日	町内高校生 5 名を 13 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 15 年 10 月 24 日 ～11 月 5 日	アベリスツイスの教師と高校生 6 名が 13 日間の日程で、ホームステイにより滞在
平成 16 年 8 月	ペングライス高校の生徒 1 名をホームステイにより受け入れ
平成 16 年 10 月 30 日 ～11 月 11 日	町内高校生 6 名を 13 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 17 年 10 月 20 日 ～11 月 1 日	アベリスツイス高校生 6 名と先生 1 名、随員 1 名が 13 日間の日程で、ホームステイにより交流を深めた
平成 18 年 10 月 27 日 ～11 月 8 日	太田貴美与謝野町長を団長に、町内高校生 6 名を 13 日間の日程でアベリスツイスへ派遣 与謝野町としての交流を記念し、町の木「椿」の苗木を植樹
平成 19 年 10 月 25 日 ～11 月 7 日	アベリスツイスの教師と高校生 6 名が 14 日間の日程で、ホームステイにより滞在
平成 20 年 10 月 29 日 ～11 月 9 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 21 年 10 月 21 日 ～10 月 29 日	アベリスツイス高校生 6 名と随員 2 名が 9 日間の日程で、ホームステイにより滞在
平成 22 年 11 月 2 日 ～11 月 13 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 23 年 10 月 19 日 ～10 月 26 日	アベリスツイス高校生 7 名と随員 1 名が 9 日間の日程で、ホームステイにより滞在
平成 24 年 11 月 3 日 ～11 月 14 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 25 年 10 月 25 日 ～11 月 5 日	アベリスツイス高校生 5 名と随員 1 名が 12 日間の日程で滞在
平成 26 年 7 月 5 日 ～7 月 16 日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 27 年 2 月 23 日	与謝野町・アベリスツイス大学間の包括協定を締結

平成 27 年 7 月 24 日 ～8 月 9 日	与謝野町民 3 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 27 年 8 月 24 日 ～9 月 4 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 27 年 11 月 9 日 ～11 月 10 日	アベリスツイス大学職員 2 名が与謝野町を視察
平成 28 年 1 月 21 日 ～1 月 30 日	アベリスツイス大学から 8 名の学生と随任教員 1 名が 10 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 28 年 8 月 1 日 ～8 月 12 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 28 年 8 月 15 日 ～9 月 9 日	与謝野町民 2 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 28 年 10 月 23 日 ～11 月 3 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 29 年 1 月 26 日 ～2 月 4 日	アベリスツイス大学から 8 名の学生と随任教員 1 名が 10 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 30 年 1 月 26 日 ～2 月 5 日	アベリスツイス大学から 5 名の学生と随任教員 1 名が 11 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 30 年 2 月 16 日 ～2 月 25 日	アベリスツイス高校生 6 名と随行 2 名が 10 日間の日程で与謝野町に滞在
平成 30 年 7 月 30 日 ～8 月 10 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 30 年 11 月 5 日 ～11 月 16 日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生 5 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
令和元年 10 月 25 日 ～11 月 2 日	アベリスツイス高校生 3 名と随行 2 名が 9 日間の日程で与謝野町に滞在
令和 5 年 11 月 6 日 ～11 月 17 日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生 8 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣

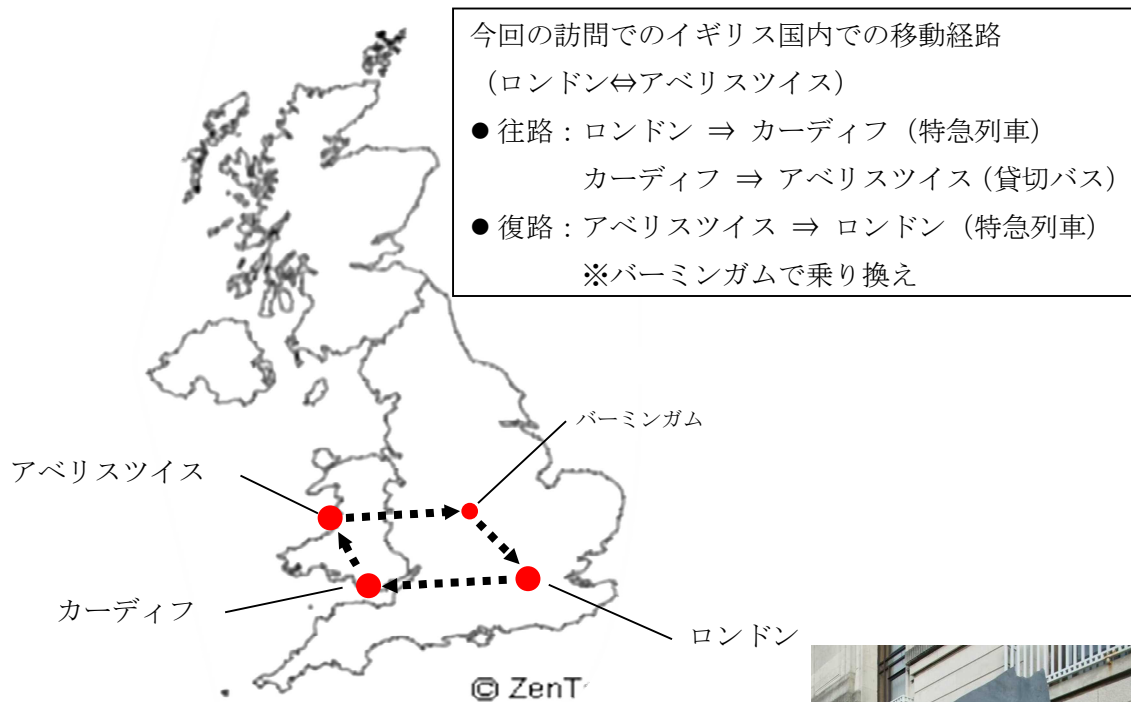
—アベリスツイス(Aberystwyth)の紹介—

イギリスのロンドンから西へ列車で約5時間のカーディガン湾に面した人口約11,000人の町です。

主な産業は農業(牧畜)や観光業で、アベリスツイス大学、国立図書館など文教施設があり、世界各国からの留学生も多く、カラフルな街並みや美しい海岸が印象的な町です。

ウェールズの歴史と文化を誇りにし、ウェールズ語を多くの人が話し、町のサインも英語とウェールズ語が併記してあります。

ウェールズ語の語源は、ヨーロッパで最も古いとされている言葉の一つであるケルト語(ゲール語)です。ウェールズ語でWalesのことをCymruカムリと言い、「同胞の人々の住む国」といった意味があります。「Croeso i Cymru (クロイソ・イ・カムリ=ようこそ、ウェールズへ)」というサインがあちこちに掲げられ、旅人を温かく迎えてくれます。また、標識などはすべて公用語である英語とウェールズ語の二通りで示されています。



アベリスツイスの街並みや風景など



研修日程・概要

◆事前研修

【結団式及び第1回】

- (1) 日程 令和5年8月25日(金)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・町長挨拶、事業概要説明
 - ・自己紹介
 - ・スケジュールについて
 - ・各種手続き書類の準備等について



結団式(記念撮影)

【第2回】

- (1) 日程 令和5年9月22日(金)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・各種手続き書類の確認について
 - ・派遣団員を知ろう!
 - ・アベリスツイスとの交流について



野田川庁舎での研修

【第3回】

- (1) 日程 令和5年10月17日(火)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・英国・ウェールズ(アベリスツイス)ってどんなところ?
 - ・前回(平成30年度)の訪問内容について

【第4回】

- (1) 日程 令和5年10月21日(土)
- (2) 場所 慰霊碑、与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・慰霊と誓いの祭事(主催:与謝野・アベリスツイス友好協会)
 - ・ホームステイの心得、諸注意



慰霊と誓いの祭事

【第5回】

- (1) 日程 令和5年10月30日(月)
- (2) 場所 岩滝保健センター
- (3) 内容
 - ・ウェールズ政府日本代表との対話
 - ・研修の心得
 - ・研修テーマを決めよう、研修報告会について
 - ・出発日・帰着日のスケジュールについて

◆現地研修（令和5年11月6日～11月17日）

日程	内 容
6日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・与謝野町を出発し、町マイクロバスで関西国際空港へ ・関西国際空港を出発、アブダビ国際空港を経由しロンドン・ヒースロー空港へ
7日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロンドン・ヒースロー国際空港に到着し、貸切バスでパディントン駅へ ・パディントン駅からカーディフ中央駅へ <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェールズ政府職員 Mioko Morris さんの案内でカーディフ散策 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・現地友好協会会長 Mair さん、ペングライス校教師 Mark さんと合流し、現地友好協会手配のバスでアベリスツイスへ <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス大学内で現地協力者やホストファミリーと面会
8日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> □Ceredig さん、Mark さん案内、及川さん（通訳）同行（National Library のみ） ・National Library（国立図書館）見学 ・AberInnovation（研究開発施設）訪問 ・Arts Centre（芸術センター）訪問
9日 (木)	<p><u>研修生</u> □Vicky さん（国際事務所員）案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス大学訪問 ⇒ 犯罪心理学の模擬授業、海外留学生語学クラス、ロボットプログラミングのワークショップに参加 <hr/> <p><u>山添町長</u> □及川さん同行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス大学訪問 ⇒ 連携協定更新に向けた意見交換 ・アベリスツイス議会訪問 ⇒ 両町の行政間における友好協定締結 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎レセプション
10日 (金)	<p><u>山添町長</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス駅から帰国の途に <hr/> <p><u>研修生</u> □Mark さん、Carol さん、Bowman さん案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッハンスレス(Machynlleth)へ ⇒ MOMA（教会を改装したホール・ギャラリー）、Senedd-dy Owain Glyndwr（昔の議会建物）、RED shoes（ハンドメイド靴屋）、Corris Mine Explorers（スレート鉱山跡）見学
11日 (土)	<p><u>研修生</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーと行動 <hr/> <p><u>随 行</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Mair さん、Mark さんとスノードニアへ
12日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> □Ceredig さん、Mair さん、Mark さん案内 ・Remembrance Sunday（戦没者追悼式に参加） ・Frank Evans` Grave（エバンスさんのお墓参り） □Arwel さん合流 <hr/> <p><u>高校生</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーと行動 <hr/> <p><u>随 行</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ceredig さんと Red Kite Feeding へ

13日 (月)	<p>□Mark さん案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンダライス校訪問 ⇒ 授業（工作・美術・音楽）見学、ウェルシュハーブ（民族楽器）演奏ワークショップに参加 <p>□Arwel さん合流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンウェディグ校訪問 ⇒ 授業（数学・語学）見学 ・プラスクリグ校訪問、ガムライグ校訪問
	<p>廣 谷 □Vicky さん案内、及川さん同行（大学訪問のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス大学訪問（School of Art、Department of Theatre, Film and Television Studies） ⇒ ペンウェディグ校で合流
14日 (火)	<p>□Mark さん、Sophie さん案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Welsh Wool Museum（ウェールズ・ウール・ミュージアム）見学 ・Hiut Denim Company（ハイト デニム カンパニー）見学
15日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・アベリスツイス駅を出発、バーミンガム駅を經由しロンドン・ユーストン駅へ ・ロンドン市内散策、ホテル宿泊
16日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルから貸切バスでロンドン・ヒースロー空港へ ・ロンドン・ヒースロー空港を出発、アブダビ国際空港経由し関西国際空港へ
17日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・関西国際空港に到着し、町マイクロバスで与謝野町に帰着

※研修生は平日15時30分頃からホストファミリーと過ごした。

◆事後研修

- (1) 日程 令和5年12月5日（火）
- (2) 場所 岩滝保健センター
- (3) 内容
 - ・事後アンケートについて
 - ・研修報告会について

◆研修報告会

- (1) 日程 令和5年12月26日（火）
- (2) 場所 岩滝保健センター
- (3) 内容
 - ・訪問報告
 - ・質疑応答



研修報告会

研修生報告書

(目 次)

井 崎 李 美	・ ・ ・ 1 3
太 田 絢 子	・ ・ ・ 2 1
根 本 咲	・ ・ ・ 2 8
堀 江 健士朗	・ ・ ・ 3 4
村 田 亜 美	・ ・ ・ 4 1
森 下 彩 咲	・ ・ ・ 5 6
尾 関 真 帆	・ ・ ・ 6 3
西 村 れ い	・ ・ ・ 7 2